

(様式1・小学校用①)

# 令和5年度 学校評価報告

草加市立氷川小学校

(令和6年2月1日作成)

<b>1 学校教育目標</b> 「学びあい 助けあって 自分を高める」  氷川小学校の目指す児童像 ○ひ・ひかる汗 (体) 高めあう子 ○か・輝く瞳 (徳) 助けあう子 ○わ・わかる喜び (知) 学びあう子	
<b>2 重点目標・努力目標</b> ○子どもが伸びる学校 ・落ち着いた授業環境 (学校生活あいうえお) ○子どもが生き生きと活動する学校 ・よさを語れる子 (自分・学校・地域の良さ) の育成 ○保護者・地域と共に歩む学校 ・「開かれた学校」から「地域と共に歩む学校」へ ○教育環境を大切に作る学校	<b>3 前年度の成果と課題</b> 成果 ○県学力・学習状況調査で全学年が全領域で県平均を上回った。また、自己肯定感・自己有用感の高揚が見られた。 ○全学級・全教職員で共通理解のもと「外国語活動・外国語」と「特別活動」を重点に教育課程が充実した。 課題 ●幼保小中一貫教育のさらなる推進のため、保護者、地域と連携を充実させる。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○風通しがよく、いつでも誰にでも相談しやすい職場環境で、職員間の情報を共有できた。 ●一部に負担がないよう、校務分掌組織を見直す。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○様々な研修会、研究会が計画的にくまれ、校内研修が充実し、個々の授業力が向上した。 ●来年の発表を控え、中学校区で連携し、さらに先を見通して計画的に研修を進める。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○車いす対応の避難訓練、不審者対応訓練を行い、非常時の避難方法について共通理解を深めた。 ○アプリの継続で健康観察を可視化した。 ●養護教諭が不在の時の、周知と対応についてさらに共通理解をする。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○児童の安全に関わる施設は早急に対応し、施設による事故はなかった。 ○施設設備の老朽化による鍵の掛かり具合の悪さを南京錠等に対応し管理した。 ●廊下タイルの剥がれは、収支が間に合わない。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○4年ぶりにPTA主催の「ふれあい広場」が開催され盛況だった。 ○学校HPで日々の教育活動を知らせた。 ●来年度から、PTAが「氷川小サポーターズ」となるにあたり、活動の内容を確認する。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○幼保園と連携し、今年度は複数回交流できた。 ○乗り入れ教諭と信頼関係ができ、6年生が安心して中学校入学できる。 ●15年間を通じたカリキュラムは、中学校区で地域の実態把握と共通理解を深める必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画的に教育課程を行い、授業時数を確保しながら、今年度は行事もほぼコロナ前に近づけた。</li> <li>○氷川小学校生活あいうえおが周知徹底できた。</li> <li>●始業前の活動が、教員の出勤の早さに繋がる。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語・外国語活動と特別活動の研修を充実させ「伝え合い」に重点を置いた教育活動ができた。</li> <li>○生活科や総合の授業で外部人材を活用した。</li> <li>●教科担任制のさらなる充実と推進。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自主研修や道徳推進教諭の授業研究により、教員の授業力が向上した。</li> <li>○教育活動全体を通して行った。</li> <li>●各教科との関連を体系づけて授業を行う。</li> </ul>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>各教科、道徳教育との関連</li> <li>中学校との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語教育の研修を行い、全教員がレベルの高い授業に向けて指導方法を学んだ。</li> <li>●Eタイムや英語集会の時間を確保し、さらに低学年から外国語教育を進める。</li> </ul>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>児童会活動</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学級会」の持ち方について校内研修を行い、話し合い活動や授業の流れの共通理解をした。</li> <li>○児童主体の行事や児童会活動を行った。</li> <li>●行事や児童会活動の精選と時間の確保</li> </ul>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年に合わせて、調べ学習の発表などにICTを効果的に活用できた。</li> <li>●ICTの活用を教育計画の中に位置付けることはできたが、さらに教科横断的に計画していく。</li> </ul>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、児童理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者、管理職、S S W、児相と連携しながら、諸問題の解決に対して組織的に対応できた。</li> <li>●対処療法的ではなく、引き続き、教育相談・児童理解を深めていく。</li> </ul>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>中学校との連携</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>家庭、地域との連携強化</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校や家庭とは連携が図れた。</li> <li>●啓発的な経験を充実させるため、地域との連携を強化していく必要がある。</li> </ul>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通常学級と計画的に交流できた。</li> <li>○個別の指導計画を作成し、教職員で周知し対応できた。</li> <li>●校内の支援体制を確認し、個別指導を要する児童に対応する。</li> </ul>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「読書の日」「読書表彰」「読み聞かせ」に取り組み、児童や保護者の啓蒙・啓発を行った。</li> <li>●児童会活動や委員会活動で学校全体として読書に関わる行事を進めて行きたい。</li> </ul>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業や行事、児童の健康管理などICTを活用して行うことが当然となり児童、教職員ともにスキルが向上した。</li> <li>●発達段階に合わせた情報モラル教育の推進していく。</li> </ul>
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員で、年度当初の特別支援学級に係る研修、夏季休業中の人権感覚育成研修を行い、共通理解を図ることができた。</li> <li>●人権感覚プログラムを更に推進していく。</li> </ul>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	基礎学力の定着	・朝自習・チャレンジタイムの活用 ・読書活動の推進 ・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・家庭学習の充実	A	○国語、算数、外国語に関しては「チャレンジタイム」の内容が学年で統一され充実していたので基礎学力の定着につながった。 ○全学調、県学調での「非認知能力の」向上があった。 ●低学年のチャレンジタイムの活用を充実させる。
	コミュニケーション力の育成	・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・指導方法の工夫と改善	A	○今年度行われた研究授業で、研究主題である「生き生きと自分の考えを伝えあう子をめざして」を意識した授業が行われ、共通理解ができた。 ○「学級会」の研修を深め、特別活動でもコミュニケーション能力を育成することができた。 ●教育活動全体でコミュニケーション力を向上させる。
	生徒指導・教育相談の充実	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・校内支援体制の整備	B	○生徒指導案件については、全教職員で周知し、迅速に対応できた。 ○いじめ防止については、早期発見、迅速な対応、経過観察を全教職員で共通理解し対応した。 ●生徒指導と教育相談の連携と充実を行う。

**5 総合評価** (学校関係者評価を含む)

- ・5月に新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、教育活動の見直しを行った。行事や集会、校外学習の復活を行い、保護者への公開、地域との交流を増やした。各行事等については、保護者や地域からの評価は高かった。
- ・学校経営については、「児童の自己肯定感・自己有用感の高揚」という目標に向けて、教職員が共通理解のもと、組織として教育活動を行うことができた。
- ・校内研修や市・県の研修を積極的に行い、教職員の授業力向上に繋がった。
- ・高学年での教科担任制は定着してきた。児童の知識、技能が向上している。
- ・授業参観での姿、子供たちの絵、すばらしいです。風通しのよい氷川小学校と思っています。(学校関係者)
- ・昨年より、何事もプラスになりよかったです。嬉しいです。(学校関係者)

**6 次年度の改善策****【学習について】**

- ・日課表や月予定の見直しを行い、授業時数を確保しながらも教育活動を充実させる。
- ・開かれた学校として、保護者や地域と関わる行事を検討していく。

**【研修について】**

- ・令和6年度の発表に向けて、谷塚中学校区で共通理解のもと幼保小中一貫教育に取り組む。

**【負担軽減について】**

- ・保護者への連絡や配付物を「すぐーる」で行い、ペーパーレス化に取り組む。
- ・「定時退勤デー」「ふれあいデー」を推進していく。

**【不祥事防止について】**

- ・倫理確立委員会を計画的に行い、不祥事防止について意識を高めていく。